

平成26年度 活動報告 (年 報)



教職員の森林・林業体験学習



木曽駒ヶ岳植生復元



森林ボランティア・NPO連携推進会議

中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター

平成27年3月31日発行

〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島1250-7

TEL 0264(22)2122 FAX 0264(21)3151

E-mail : kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

一年を振り返って

平成26年4月に木曽森林ふれあい推進センター新所長が着任し、3名の自然再生指導官と4名体制で平成26年度が始まりました。着任早々、長野県林業大学校・木曽青峰高校の入学式、城山史跡の森倶楽部との遊歩道整備とあわただしいスタートとなりました。

その後も、城山史跡の森でのハイキング、下流域住民等との植樹祭・森林整備、中学校・高校生徒の歩道チップ敷き・森林散策、NPOの森林整備指導等の行事が夏まで続けました。

6月27日には、温帯性針葉樹保護・復元第一回管理委員会が開催され、温帯性針葉樹林保存・復元に向けた中長期的な目標や取組の方針（管理基本計画）の検討を行うこと、また、取組地域の愛称について募集することについて大筋で了解されました。

7月19日には近年の木曽谷の林業の中核を担ってきた旧帝室林野局木曽支局庁舎が公開されたり、7月下旬になると、地元木曽福島において、みこしまくりという奇祭が行われ、赤松材から作ったみこしを縦、横に勇壮に転がし、段々壊れていく様子を初めて見ることができました。また、木曽郡内の小中学校生によるみどりの少年団の集いに指導者として参加したり、8月に入って、教職員森林・林業体験研修会を開催し、多くの先生方に参加をいただき、学校関係者への森林・林業の大切さのPRが図られました。

9月には、ボランティアによる木曽駒ヶ岳植生復元作業（マット敷設等）及びボランティアによる木曽駒ヶ岳植生復元作業10周年記念講演会を実施し、多くの方々に参加いただき、充実した時間を過ごしていただけたと思います。

10月3～4日には、下諏訪町において、森林ボランティア・NPO連携推進会議と森ふれあいフェスタを開催し、局管内4県の森林ボランティア等20団体・局署職員合計76名の参加により、1日目は参加団体の見識を広げるための講習会として、諏訪大社下社秋宮において、諏訪湖博物館館長による建造物の構造や歴史の説明、京都の社寺等屋根工事技術保存会による檜皮葺屋根を学び、2日目は「ひのき箸作り」「バウムクーヘン作り」等のワークショップを開いて地元市民等との交流が図られました。

10月下旬以降も、下流域住民による森林整備の指導、城山史跡の森においてカザグルマ及びササユリ自生地の整備や巣箱掛け等を行いました。11月には三年目となる、学校林間伐材を利用した木曽青峰高校による城山史跡の森倶楽部へのベンチ贈呈式が行われました。

12月には、7月の南木曽町の土石流災害、9月の御嶽山の噴火によって、木曽地域の観光産業やスキー場が大きな打撃を受けていることに支援・応援をするため、木曽観光連盟、地元町村、観光協会と連携し、木曽川の下流域の住民に対してこの地方に関心を持って頂くため、観光パンフレットを中部森林管理局名古屋事務所の「林業の歴史と木材利用展示室」と同事務所が連携している名古屋市熱田区の生涯学習センターに設置し、木曽地域のPRを川下で情報発信しました。また、木曽地域のスキー場ポスターを（一社）名古屋林業土木協会の協力により、「がんばろう木曽！」といった説明書きを添え、“白鳥公園通り”に面する同協会外壁の木製掲示板に掲示しPRするなど木曽地域の貢献に取り組みました。

1月には、平成26年度中部森林技術交流発表会に「木曽駒ヶ岳における植生復元作業について（10年間の取組み）」と題して平成17年度からのボランティアによる高山における植生復元作業及びモニタリングの結果について発表しました。

以上のように1年間多くの方々と森林を通してふれあうことができたのも、当センターに勤務していたからできたことであり、大変有り難く思うとともに、協力して頂いた多くの関係者の皆様に感謝いたします。

〔所長：岩本道彦〕

活動内容等

ページ

第1 NPO等との連携による自然再生の推進及び森林環境教育等の支援	… 1
1 自然再生の推進	… 1
2 森林環境教育支援	… 12
第2 支援体制の整備	… 15
1 地元自治体・NPO等の関係団体に対する支援体制を整備	… 15
2 木曽川下流住民による森林整備	… 17
3 小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習会の開催	… 19
4 局管内で活動するNPO等の情報交換及び資質の向上を目的とした「森林ボランティア・NPO連携推進会議」の開催	… 20
掲載された新聞記事の抜粋	… 22
年間の活動内容	… 26

当センター設置の目的

- (1) 国有林野等を活用して、NPO法人等が行う自然再生、生物の多様性の保全、その他森林整備の推進及び森林の保全の確保を図る取組に対する技術的指導その他の支援に関すること。
- (2) 教職員等が行う森林の有する多面的な機能の発揮に関する教育及び学習に対する技術的指導その他の支援に関すること。

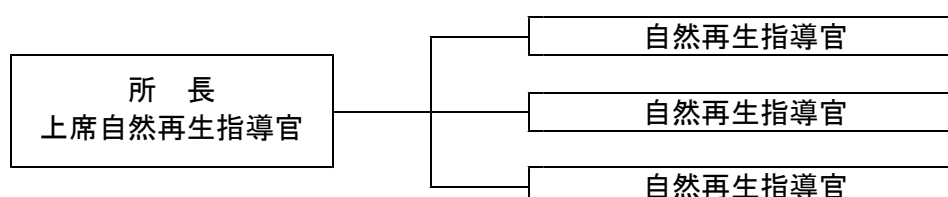
活動フィールド

主な活動区域を木曽森林管理署及び南木曽支署管内とし、ニーズに応じて局管内全域で活動する。

沿革等

平成16年	4月	1日	木曽森林環境保全ふれあいセンター設置 (所在地：長野県木曽郡日義村)
平成17年	11月	1日	木曽町誕生による所在地名変更 (所在地：長野県木曽郡木曽町日義)
平成18年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曽郡木曽町福島 5471-1)
平成24年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曽郡木曽町福島 1250-7)
平成25年	4月	1日	名称変更 「木曽森林ふれあい推進センター」

組織図



第1 NPO等との連携による自然再生の推進及び 森林環境教育等の支援

1 自然再生の推進

趣旨

NPO等との連携を図りつつ地域ニーズ等に対応した自然再生の取組みを推進し、自然再生活動事業を実施します。

自然再生の取組み自体は国有林とNPO等との連携のもとで実施しています。

(1) 木曽駒ヶ岳における植生復元対策事業

1 事業概要

中央アルプス木曽駒ヶ岳周辺においては、登山者による踏み荒らしや、大量の降雨、降雪等による砂礫の移動等により、高山植物の生育地が荒廃し、貴重な高山植物の衰退が懸念されています。

平成16年、植生荒廃の著しい登山道周辺において、高山植物の現況と、将来的に荒廃した植生の復元を図るため、関係する行政機関、学識経験者、山岳会、自然保護団体、NPO等を含めた幅広い分野の専門家による検討会を立上げ、植生の復元・維持管理のための具体的な方法等に関する検討を行い、それを基に方針を立てボランティアの協力の下、翌年度より植生復元事業を実施しています。

◎年度別マットによる敷設経過

年 月 日	敷 設 箇 所	面積 (㎡)	参加者(人)
17. 9. 29	天狗荘裏	210	26
18. 9. 21	天狗荘裏	210	30
19. 9. 19	伊那前岳八合目	210	36
20. 9. 18	乗越浄土・伊那前岳九合目・登山道沿い	213	31
21. 9. 02	駒ヶ岳頂上山荘横(鞍部)	202	31
22. 9. 14	天狗荘裏・伊那前岳方面	200	33
23. 9. 15	天狗荘北西・伊那前岳方面の新規と補修	191	36
24. 9. 12	駒ヶ岳山頂等・伊那前岳方面の新規と補修	235	36
25. 9. 12	極楽平周辺・三の沢岳登山道周辺	140	29
26. 9. 11	頂上山荘横・伊那前岳方面の新規と補修	156	46
計		1,967	334

注) 参加者には、ボランティア、行政機関等が含まれる。

以下に26年度の取り組みについて報告します。

(ア) マット敷設箇所の選定

昨年度の植生復元対策調査報告書及び24年度の検討会の意見等を踏まえ、木曽駒ヶ岳登山のルートと三ノ沢岳登山のルートを調査しました。

調査対象は、飛砂や砂礫の流出・流入を防止し、視覚的にも登山者に訴えかける効果も期待でき、ボランティアの皆さんにも参加していただきやすく、かつ啓発もかねて環境教を実践できる場ということで、今年度の

新規敷設箇所は頂上山荘横と駒飼ノ池登山道沿いを選定し、伊那前岳方面の稜線と八合目の過去に実施した箇所の補修を計画しました。



平成26年度敷設箇所位置図

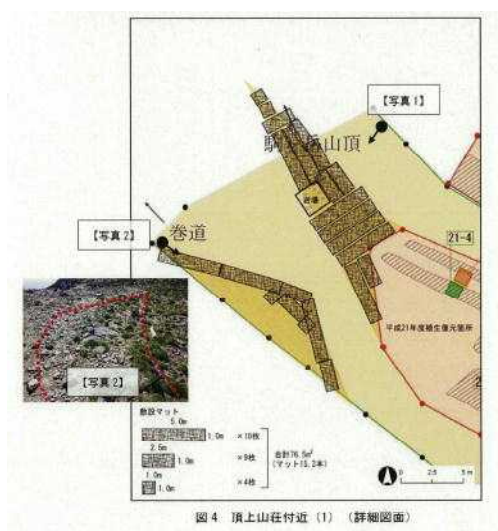


図4 頂上山荘付近(1) (詳細図面)

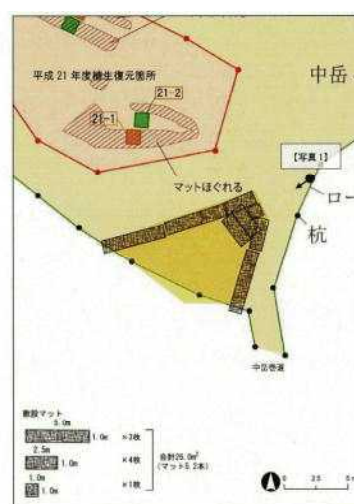


図5 頂上山荘付近(2) (詳細図面)

平成26年度敷設計画図(頂上山荘横)

(イ) マット敷設の実施

9月11日、公募によるボランティア及び関係者、局署職員を含め総勢46名が参加して、新規敷設と補修を合わせて156㎡を実施しました。

駒ヶ根市の菅の台バス停に早朝に集合し、千畳敷ロープウェイ駅の前の広場で開会式を行った後に、敷設用マット(1×5m)とピン(φ3mm×15cm)などの資材を参加者で分けあって背負い、作業予定地へ向け出発しました。

駒飼ノ池登山道沿いの作業地に到着後、作業手順の説明を受け、全員でマットを敷設しました。その後二手に分かれ、それぞれ作業を行いました。途中天候が急変し、一時は雨やヒョウが降る中での作業となりました。

また、あらかじめ採取しておいたイワスゲ、イワツメクサ、タカネツメクサなどの種子の播種も行いました。



マット運搬



マット敷設作業



参加者全員で

2 10周年記念講演会

ボランティアによる植生復元作業が始まって、今年で節目の10年となることから、これまでの活動及び植生の現状と復元に向けた取組みにおける効果について、広く一般市民の皆様にご理解いただくとともに、今後における植生復元作業に参加していただくことを目的に、10周年記念講演会を9月26日に長野県駒ヶ根市文化会館小ホールにおいて開催しました。

講演会の内容は以下のとおりです。

◎「10年間の活動報告」

木曽森林ふれあい推進センター

内容： 植生マット敷設の作業内容及び効果、10年間の実施箇所、各年度の作業紹介等について

◎「高山帯の植生復元を考える－いくつかの事例を通して」

信州大学名誉教授 土田 勝義氏

内容： 高山帯における植生復元についての事例紹介、植生復元の考え方、外来種の駆除等について

◎「植生復元の思い出と木曽駒ヶ岳の歴史」

中央アルプスの自然を愛する会 副会長 堺澤 清人氏

内容： 植生復元作業の思い出、木曽駒ヶ岳にゆかりのある植物の解説、木曽駒ヶ岳の歴史的な背景等について

◎「木曽駒ヶ岳における植生復元対策－作業の経過と植生回復の現状について－」

株式会社グリーンシグマ 佐々木 博昭氏

内容： モニタリング調査方法、植生復元箇所の経年変化、現状、植生復元事例等について

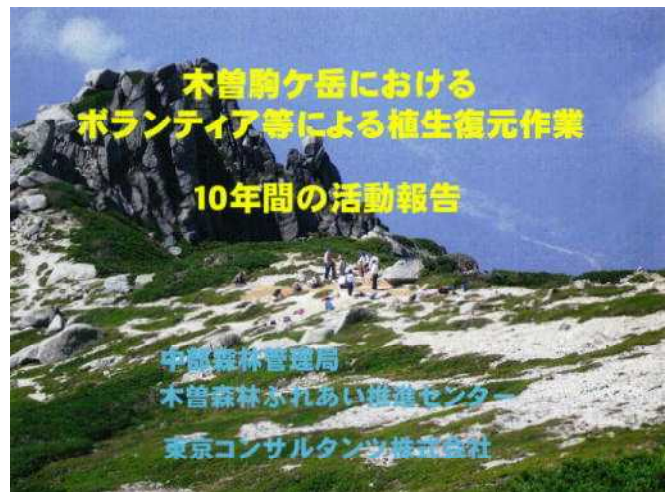
3 中部森林技術交流発表会

成27年1月28日～29日に実施された中部森林技術交流発表会において、「木曽駒ヶ岳における植生復元作業について（10年間の取組み）」と題しボランティアによる植生復元作業や、モニタリング調査の結果について、当センターと東京コンサルタンツ株式会社（今年度木曽駒ヶ岳における植生復元対策調査を請負った会社）との共同で発表しました。発表結果は10年間の継続した活動等が評価され、局長優秀賞をいただくことが出来ました。

以下に、発表要旨を紹介します。

1. はじめに

中央アルプス木曽駒ヶ岳周辺においては、登山者による踏み荒らしや、大量の降雨・降雪等による砂礫の移動により高山植物の生育地が荒廃し、貴重な高山植物の衰退が懸念されていることから、植生マット敷設による植生復元作業とそのモニタリング調査を実施しています。



2. 取組みの経過

植生復元作業は、平成16年度に植生荒廃の著しい登山道周辺において植生の現況等を明らかにし、将来的に荒廃した植生の復元を図るため、信州大学、長野県環境保全研究所、地元NPO団体、地方事務所、関係市町村、山岳会による検討会を立ち上げ、植生の復元や維持管理のための方法等について検討を行い、それを基に方針を立て植生復元の方向性を決めました。

その結果、平成17年度からボランティアや地元関係者の協力を得ながら

植生マットを敷設し、マットの下に現地周辺で採取した種を蒔くといった一連の作業を実施してきています。

モニタリング調査は、植生マット敷設箇所において1 m×1 m四方を基本として植生の分布状況に応じた大きさの固定プロットを設置し、方眼紙を用いて種名、株の形や大きさ、位置、目印となる礫等をスケッチしたプロット図を作成し、被度（%）草丈（cm）固体数等を記録しました。

3. 実行結果

植生復元作業におけるこの10年間の植生マット敷設面積は合計で1,967 m²、参加人員は延べ334人となりました。

また、モニタリング調査の結果、植生復元作業を実施した箇所では全体として植生は順調に回復していました。環境が比較的安定した風背地ではもちろんのこと、常に強風にさらされる風衝地においても順調な回復を見せています。植生回復の傾向として、マット敷設後数年は、ほとんど植生が発達していない状態が続き、高山植物の実生（芽生え）が進入と消失を繰り返していました。敷設後、4～5年程度経過すると定着した実生が大きく生長して来ました。これまでのモニタリングの結果、事例の少ない高山帯における植生回復初期の様子を記録として残すことができ、長い目でモニタリングすることの重要性も明らかになりました。

4. 考察

長期間にわたるモニタリングの結果から、風衝地風背地といった立地により植生回復の速度は異なるものの、植生復元作業により人による踏み込みがなくなるだけで着実な植生回復をみせることがわかりました。逆に地表を水が流れる場所のように表土が移動する場所や、冬季に凍上する場所では植生回復は難しく、表土の状態を整える必要があることが考えられました。

5. おわりに

高山植生回復のために、今後も登山道沿いを中心に植生マット等による復元作業を行うとともに、過去に敷設した箇所の補修にも取り組み、敷設箇所のモニタリング調査を実施し、高山の本来あるべき自然を可能な限り回復させ、高山植物のあふれる木曽駒ヶ岳を目指し、継続していきたいと考えています。



(2) 「城山史跡の森」 自然再生・NPO等活動拠点整備事業

1 「城山史跡の森」における「城山史跡の森倶楽部」及び地元自治体等との協働における森林整備及び森林環境教育の実施

木曽町福島市街地の北西に位置する城山国有林は、戦国時代木曽氏によって築かれた山城である福島城跡や木曽義仲にまつわる権現滝など伝承のある史跡等に恵まれ、木曽福島駅から比較的短時間で木曽ヒノキ、サワラ、モミ等の大径木や季節ごとの植物観察等が気軽にできるコースとして県内外からの観光客が増加しています。

「城山史跡の森倶楽部」が主体となって実施する「城山史跡の森」の森林整備、案内看板や遊歩道等の整備に対し、当センターでは支援、協力を行っています。

また、「城山史跡の森」は、木曽川下流域の人たちとの交流の場として活用されています。

(ア) 長野県指定、希少野生植物の増殖・保護活動

城山国有林「城山史跡の森」には、長野県希少野生動植物保護条例の指定を受けているササユリ、ヤマシャクヤク、カザグルマや、各地でも保護活動が盛んになっているカタクリの自生地があります。

今年度も、カザグルマとササユリの自生地において整備を行いました。カザグルマの自生地においては、「城山史跡の森倶楽部」会員の皆さんとともに、5月にカザグルマを支える支柱の取替え作業を実施し、11月にはクズが大量に繁茂していることから、刈り払いと薬剤による枯殺処理を行ないました。

本数調査や増殖・保護活動も継続して行っています。

◎ カザグルマ自生地の整備



自生地の整備

ササユリ自生地においても11月に、同倶楽部の会員の皆さんとともに、かん木等の除伐や林床の刈り払い整備や、自生地の周囲に張ってあるグリーンロープの張替え及び、種の採り蒔き作業を実施しました。

また、期間中獣害等による被害はありませんでしたが、センサーカメラによる実態調査も試みました。

◎ ササユリ自生地の整備



ロープの張替え



種まき

◎ カタクリの調査

平成24年度	32本を確認
平成25年度	41本を確認
平成26年度	41本を確認



カタクリ（26年5月）

◎ ヤマシャクヤクの調査

平成24年度	153本を確認
平成25年度	194本を確認
平成26年度	269本を確認



ヤマシャクヤク（26年5月）

◎ カザグルマの調査

平成24年度	133本を確認
平成25年度	184本を確認
平成26年度	130本を確認



カザグルマ（26年5月）

◎ ササユリの調査

平成24年度	29本を確認
平成25年度	24本を確認
平成26年度	34本を確認



ササユリ（26年6月）

(イ)「城山史跡の森倶楽部」等が行う遊歩道等の整備及び植物観察会活動への支援

城山史跡の森倶楽部は、「城山史跡の森」の国有林のうち、城山風致探勝林(レクリエーションの森)に指定されている区域について、平成16年度に木曽森林管理署と「城山史跡の森における森林整備等の活動に関する協定書」(対象面積77.9ha)を締結し、協定に基づき歩道や森林整備作業、地域や上下流域の交流を図りながら森林環境保全意識の啓発活動や多様な体験活動(体験林業、自然観察会等)を実施しています。倶楽部のその年度の活動計画は役員会において作成されますが、当センターは、同倶楽部の活動全体を支援する立場で、情報の提供や助言、現地案内、技術・安全指導、道具の貸与、樹名板改設など協力を行っています。

A 遊歩道等の整備

(A) 4月13日、観光シーズンを迎える前、自然散策等を安全かつ快適に楽しんでいただくため、城山史跡の森倶楽部会員と共に、「史跡の森」の遊歩道等の傷んだ箇所を整備と1月22日に地元の木曽青峰高校から寄贈された新たなベンチの設置を行いました。



御料館の前で開会式



遊歩道整備



ベンチ設置作業



城跡整備

B 自然観察会、小鳥の巣箱掛け等

【自然観察会】

当センターも共催している城山史跡の森倶楽部主催の植物観察会が4月29日（火）に木曽郡内の参加者26名の中実施されました。参加者は、春の芽吹き始めの森林でいろいろな植物の観察を楽しみました。

この観察会は、毎年行われているもので、当日は、植物に詳しい県植物研究会員の講師や同倶楽部会員の案内で約8キロの行程を植物や史跡の説明に耳を傾けながら散策し、スミレ、リンドウ等ちょうど花が見ごろの50種程度の草本やこの地の歴史、更に遠くに見える山々の特徴を熱心に学びました。



講師の説明を熱心に聞く



この時期よく見られるエイザンスミレ

【小鳥の巣箱掛け】

11月12日、小鳥の巣箱掛け作業を実施しました。

作業は、城山史跡の森倶楽部のほかボランティアの皆さんなど、総勢16名が参加して実施されました。

小鳥の巣箱掛けについては平成21年度から毎年実施しており、当森林に多く棲むシジュウカラなどの小型鳥類を対象に巣箱を作成しています。当センターでは、4名が参加し作業に協力しました。

以前設置して古くなった巣箱38箱を取り外し、今年度地元の方が丹念に作成した新しい巣箱38箱を新たに設置しました。

取り外した巣箱の幾つかには営巣や利用した形跡があり、来年の繁殖期に多くの小鳥たちに巣箱を利用してもらえようよう作業を行いました。



巣箱掛けの様子



回収された巣箱

イ「城山史跡の森」に生育する木曽五木のひとつ「コウヤマキ」の後継稚樹の育成

概要と状況

コウヤマキは日本固有の常緑針葉樹で、高野山に多くみられることが名前の由来となっています。以前はスギ科に含まれていましたが、現在は独立したコウヤマキ科として扱われ、一科一属一種の極めて特異な樹種です。

用途は建築、器具等に用いられ、水に強くて腐りにくいので、風呂桶や船舶等にも使われています。

木曽谷地域におけるコウヤマキの生育箇所は限られており、天然木は通常では目にする機会があまり多くありません。

「城山史跡の森」の遊歩道の沿線には群をなして生育している箇所があります。



コウヤマキの天然稚樹育成のための調査プロット（1×1 m）を、平成21年度に5箇所設定し継続して観察を行っています。

プロット周辺は、木曽ヒノキ、サワラ、モミ等が林冠を形成し、下層はホオノキ、リョウブなどの広葉樹が占有して春から秋にかけての林床への照度は弱く、発芽条件が整わないと思われることから、後継稚樹の育成を目的とした補助作業として平成21年度～22年度に除伐を実施しました。

今年度も、引き続き5箇所のプロットの稚樹の調査を実施した結果、各プロット内のコウヤマキの稚樹は2本から12本で、そのうち5本の新しい発芽が確認されました。



調査プロット



稚樹

2 森林環境教育支援

(1) 学校と連携した森林環境教育の実施

① 地域の学校の支援

ア 木曽青峰高校生の体験学習

木曽町に所在する木曽青峰高校では、森林環境教育の観点から新入生を対象に、ここ数年、体験学習として上松町小川入国有林内の赤沢自然休養林内で、森林散策、自然観察と遊歩道へのチップ敷き作業を行っています。

今年は5月30日、地域の遺産である木曽ヒノキの天然林を知り、この遺産を活かすためのボランティア体験学習を行うことで、地域貢献の意義を学習する目的で、1年生177名と教職員19名が、10班に分かれ木曽森林管理署・NPO法人木曽ひのきの森・当センター職員等の指導のもと作業体験に汗を流しました。



遊歩道へのチップ敷き作業の様子

また、生徒達は、休養林内の「千本立、奥千本」と名付けられている林木遺伝資源保存林（木曽ひのき林）まで、地域の森林・林業の歴史や天然林成立経緯の説明を受けながら森林散策しました。

地域の人でも、普段入ることが出来ない、樹齢300年を超すといわれる天然ヒノキが林立する森に足を踏み入れ、生徒達は感動や感心をしていました。



森林散策と「奥千本」の看板前で

イ 木曽青峰高校生によるベンチ贈呈

「城山史跡の森」に置く木製ベンチ3脚を地元木曽町の木曽青峰高校森林環境科の3年生が授業で作成し、11月12日、現地で贈呈式と設置作業がありました。

木曽青峰高校の演習林が城山史跡の森の一部になっていることから、同倶楽部の活動に協力しようと、2年前からベンチの寄贈を始め、今年で3回目となります。

演習林で間伐したヒノキを使用して、屋外で使用するため、座りやすさや丈夫さにも工夫したデザインに仕上げられていました。

贈呈式と設置作業は、史跡の森の見晴らしが良く休憩に適した「紅葉ヶ丘」であり、代表の生徒が倶楽部会員に引き渡した後、設置作業に入りました。

倶楽部の会長は「観光やハイキングの人たちに眺めを楽しみながら休憩してもらえる本当にありがたい」と感謝を述べられ、生徒の代表は、「城山を訪れた人がベンチで足を休め、怪我なく安全にハイキングしてほしい。」と願っていました。



ベンチ贈呈式の様子



作製ベンチと設置の様子

② 他県学校への森林環境教育支援

愛知県犬山市の犬山中学校は、近くに木曽川が流れており、その川との関わりが深いことから、上流域である木曽において「自然を守り育てる心を育むとともに、日本の豊かな自然に触れ、その仕事に携わっている人の考えに触れる」ことを目的に自然や文化を学ぶ木曽総合学習を毎年行っています。

今年は、5月13、14日の両日に行われました。

13日は、2年生の233人が上松町の赤沢自然休養林内で、①遊歩道への木製チップ撒き作業、②記念植樹、③熊被害防止のテープ巻作業の3つのグループに分かれそれぞれ体験しました。

作業に先立ち、休養林で整備等の活動をしているNPO法人「木曽ひのきの森」の会長から水源としての上・下流域の関わりなどについて話を聞きました。



人工林ヒノキの樹幹に熊被害
防止テープ巻きをする生徒達



記念植樹に汗をかく生徒達

14日は3～6人の班に分かれ、企業や施設等において様々な体験をする日で、木曽森林管理署には4人の生徒が訪れ、枝打ちや除伐等を体験しました。当センターでも2日間の作業の指導を行いました。



枝打ち体験の様子



手作り箸造り体験

第2 支援体制の整備

1 地元自治体・NPO等の関係団体に対する支援体制を整備

(1) 長野県木曽地方事務所及び林業関係団体等との連携

ア 木曽地区みどりの少年団交流集会の開催

木曽地域のみどりの少年団が一堂に会し、緑豊かな自然の中で互いに交流し、共同作業や森林・林業その他自然に関する学習活動を通じて相互の連携を深め、緑豊かな心をは育むことを目的とした木曽地区みどりの少年団交流集会が7月30日、県木曽地方事務所の主催で開催され、当ふれあいセンターも地方事務所からの派遣要請を受け2名の職員を派遣し、指導に当たりました。

当交流会は木曽地域の町村で毎年実施されているものですが、今年は木曽町木曽駒森林公園を会場に12団体、約150名の団員が参加しました。

団毎によるみどりの少年団活動発表や、木や山に関するものを探し出すフィールドビンゴ、木材を利用したスモークウッドでの燻製造り等を実施し交流を深めました。



開会式



活動発表



燻作り



フィールドビンゴ

(1) 木曽川下流域のNPO等が実施する森林整備を県、地元自治体等と連携した支援・技術指導

ア 木曽川水源地域の森造り協力事業 NPO法人 緑の挑戦者

名古屋市のNPO法人、緑の挑戦者は、木曽郡内3町村と森林整備協定を結び、木曽川下流域の市民を募集し森林整備をしています。

当センターでは該当町村の派遣依頼を受け、作業用具の貸し出しと技術指導を行いました。今年度は2回の実施（6月8日木祖村「こだまの森」及び、9月28日木曽町福島にて森林整備）で、いずれも企業単位の参加者が多く、和やかに除・間伐を実行しました。



木祖村での春の作業



木曽町での秋の作業

イ 「ふれあいの森」森林整備 特定非営利活動法人 地球緑化センター

特定非営利活動法人 地球緑化センターは、木曽森林管理署と「ふれあいの森」森林整備協定を結び、ボランティアを募って赤沢の森林整備をしています。今年度は計2回、各回2日間づつ延べ52名が間伐等に汗をながしました。

本活動は森林学習と森林整備を併せて行っており、宿泊が伴うことから毎回参加費を個人負担し活動をしていることに参加者の強い熱意が感じられます。当センターでは、木曽森林管理署の担当者と連携を図りながら、作業用具の貸出しや技術指導などの支援をしています。



汗を流しての間伐作業

2 木曽川下流住民による森林整備

1 木曽川下流域の自治体が実施する森林整備を県、地元自治体等と連携した支援・技術指導

ア 「平成の名古屋市民の森づくり」事業への協力

名古屋市では名古屋城本丸御殿復元事業に伴い、材料となる木曽ヒノキの供給元である木曽地域に森林を育成して、将来に残そうと「市民による森づくり」に取り組んでいます。

5月17日に名古屋市からの一般募集市民及び関係者あわせて約200名が木曽町の町有林においてヒノキやヤマザクラなどの植樹に汗を流しました。

当ふれあいセンターでは、職員派遣依頼を受けて作業用具の貸出と、技術指導を行いました。

植樹された樹木には参加者のネームプレートをつけて、次に訪れたとき確認が出来るよう配慮されていました。

また、植樹の合間には協力団体の技術者が、カラマツの伐倒実演を行い、参加者からは倒れる時の迫力に歓声が上がっていました。



植樹の様子

イ 愛知県みよし市「みよし市友好の森」間伐ツアーの支援

愛知県みよし市は、森林保護、環境保全等の啓発や水源地に住む人たちとの交流を図ることを目的に今年も木曽町三岳地区内の「みよし市友好の森」(平成12年1月御岳黒沢国有林841林班の一部を水源林として取得)において「みよし市友好の森ふれあいツアー」を9月20日に実施しました。

今年は、市民、親子連れ等一般参加者が30名、みよし市・木曽町ほか関係者を含めて総勢60名が参加しました。

少し肌寒い天候でしたが、昼食時に木曽町から差し出された豚汁で体を温めた後、参加者は、班別に指導員の案内で、森林散策を楽しんだり間伐体験に汗を流し、交流を深めました。

当センターは木曽森林管理署職員とともに間伐体験の指導や森林散策の講師を担当する等支援をしました。



森林内歩道での散策の様子



間伐体験の様子

ウ 木祖村・日進市合同育樹祭支援

10月18日（土）、19日（日）に、木祖村と愛知県日進市の合同育樹祭（木曾森林管理署共催）が木祖村奥木曾湖畔の「平成日進市の森林」（小木曾国有林）で行われ、両市村の職員や中学生、一般参加者ら約150名が平成10年度に植栽された箇所、10の班に分かれて除伐やつる切り等の作業に汗を流しました。水源の森を守り、上下流域に住む人が交流する催しで今回で22回目となり、当センターからは村からの依頼で、式典出席、作業指導、ヘルメット、手ノコの貸し出しを行いました。



開会式での唐沢村長の挨拶



中学生班の除伐作業



日進東中・木祖中生徒

3 小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習会の開催

8月7日（木）に木曽森林管理署管内の赤沢自然休養林、上松町で、木曽・上伊那地域の教職員を対象とした「森林・林業体験学習会」を実施しました。

この学習会は、児童・生徒に教える立場である小・中学校の教職員向けに、森林・林業について理解を深め、森林環境教育の重要性やその知識を高めてもらうことを目的に、長野県との共催により平成14年度から実施しているもので、今回で13回目の開催となります。

当日は、木曽地域の教職員8名、関係者7名、計15名で学習会を開催しました。

午前中は、自然休養林内を散策する中で、当センター職員からの木曽地域の森林・林業の歴史や赤沢自然休養林の生い立ち、林業遺産である木曽森林鉄道についての説明を聞いたり、実際に樹齢約350年にもなる木曽ヒノキやサワラなどの木曽五木を観察し、それぞれの樹種の見分け方や特徴を学びました。



森林内での学習の様子



貯木場での学習の様子



熊剥皮防止体験

午後からは、休養林近くの樹齢30年近い人工林ヒノキ林で、教職員自ら、それぞれ防止テープ、カッターを手にして、クマ被害防止テープ巻き作業体験に汗をかきました。

この体験をとおり、林業と獣害の関係を知り勉強になったとの声も聞かれました。

続いて、焼酎貯木場及び上松町にある製材工場を見学し、天然林と人工林の価格の違いや材の使い道など搬出した木材の流通や加工の流れを学びました。

参加した先生からは「地元の森林の歴史や林業を知ることができ、大変有意義であった。学校でも森林に関する授業があるので、学んだことを他の先生や生徒に還元したい。」などの感想が多く寄せられました。

今回は、先生のための参加でしたが、来年度は、児童・生徒も参加できるようPRに工夫をして計画していきたいと考えています。



製材工場見学の様子

4 森林ボランティア・NPO連携推進会議

森林ボランティア・NPO連携推進会議は、当局管内の富山、長野、岐阜、愛知の4県で活動している森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会し、講演会や意見交換会、市民参加型のワークショップを実施するイベント「森・ふれあいフェスタ」を開催・運営することを通じ、団体等の更なる資質の向上と連携強化を図るとともに、広く一般市民に対し、国民参加の森づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的に今年度も開催しました。

10月3日（金）・4日（土）の2日間、長野県下諏訪町諏訪神社下社秋宮、及び、なぎさ公園において、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」と関連イベント「森・ふれあいフェスタ」（連携推進会議実行委員会、中部森林管理局主催、長野県及び下諏訪町共催）を開催し、森林ボランティア団体・NPO法人など20団体と、森林管理局署の職員等、あわせて76名が参加しました。

1日目は参加団体の見識を広げるための講習会として、秋宮にて諏訪湖博物館館長建造物の構造や歴史の説明、京都の社寺等屋根工事技術保存会による檜皮葺屋根の説明に聞き入りました。また境内では下諏訪町木遣保存会による「木遣り唄」披露にみんなで「ヨイサーヨイサー」のかけ声を合わせ、伝統文化に触れた有意義な1日目となりました。



諏訪大社下社秋宮の説明



檜皮葺の説明



1日目参加者（森林ボランティア団体等）の皆さん

2日目のイベント「森・ふれあいフェスタ」を下諏訪町諏訪湖畔にある「みずべ公園」で開催し市民との交流を図りました。

晴天ではありませんでしたが親子で訪れる方が多く、延べ800名が来場し、14のワークショップ、「ウッディ福笑い」、「竹とんぼ」、「竹笛」、「ブリッジ積木」、「カンナくずプール」、「木工クラフト」、「薪割り」、「丸太切り」、「ドパスアート」、「森の？探し」、「檜皮茸実演」、「チェーンソーアート」、「バウムクーヘン作り」、「ひのき箸作り」を、NPO法人きんたろう倶楽部、NPO名古屋シティ・フォレスター倶楽部、いいやまブナの森倶楽部、NPO法人やまぼうし自然学校、一期会、NPO法人地球緑化センター、全国社寺等屋根工事技術保存会、城山史跡の森倶楽部、NPO法人ぎふし森守クラブ、金華山サポーターズ、NPO法人飛騨小坂200滝、日本山岳会岐阜支部、NPO法人恵那山みどりの会、加子母スカイウォーカーズ、国土防災(株)、ツリークライミングクラブ橙、御柱の森づくり協議会、諏訪地方事務所の各団体が分担して運営し、市民の方々がワークショップを体験されました。親子で満面の笑みを浮かべて楽しんだり、自作のクラフトを笑顔で親に自慢する子供に感心を示したりしていました。

2日間を通じ、参加団体の連携が深まるとともに今後の活動の幅や内容が広がる機会となり、また、多くの市民の方々がワークショップを体験し、森林・林業に対する理解を深めて頂くことができました。



丸太切り体験



竹笛作り体験



バウムクーヘン作り



2日目スタッフ（森林ボランティア団体・職員）の皆さん

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
4	5	長野県立木曽青峰高等学校入学式出席
	8	長野県林業大学校入学式出席
	10	城山史跡の森 遊歩道点検（木曽町）
	13	城山史跡の森ベンチ設置作業（木曽青峰高校贈呈）
	18	森林ボランティア・NPO連携推進会議実行委員会（下諏訪町役場）
	19	NPOひのきの森総会出席（上松町）
	20	木曽川水の始発駅総会出席（木祖村）
	23	現地打合せ 上松技術専門学校体験林業（赤沢自然休養林）
	24	城山史跡の森 カタクリ自生地調査（木曽町）
	29	城山史跡の森春の散策会参加（木曽町） 緑のフェスティバル参加（瀬戸市）
5	2	城山史跡の森 カタクリ自生地調査（木曽町）
	9	上松技術専門学校体験林業指導（赤沢自然休養林）
	10	平成日進の森林整備指導（木祖村）
	13.14	犬山中学校木曽総合学習指導（赤沢） ふれあい研修講師（下呂技術センター）
	17	平成の名古屋市民の森づくり参加指導（木曽町）
	19	城山史跡の森 ヤマシャクヤク個体数調査（木曽町）
	20	岐阜農林高校散策指導（赤沢自然休養林） ハンノキ成長調査（王滝村）
	24	NPO法人緑の挑戦者森林整備指導（木祖村）
	27	城山史跡の森カザグルマ開花調査（木曽町）
	28	鳥居峠踏査（木祖村～塩尻市）
	29	阿寺溪谷踏査（大桑村）
6	30	木曽青峰高校林業体験指導（赤沢自然休養林）
	1	中日親友隊森林整備指導（王滝村）
	3	講演会打合せ（松本市）
	4	NPO法人地球緑化センター作業地現地検討会（上松町）
	6	城山史跡の森カザグルマ開花調査（木曽町）
	7. 8	NPO法人地球緑化センター森林整備指導（上松町）
	9	御嶽山写真撮影（田の原）
	10.11	教職員林業体験現地検討（愛知所管内）
	12	講演会打合せ（駒ヶ根市）
	13	城山史跡の森ササユリ確認調査（木曽町）
	16	森林ボランティア・NPO連携推進会議打合せ（諏訪市）
	18	京都府立北桑田高校散策指導（赤沢自然休養林）
	19.20	城山史跡の森ササユリ確認調査（木曽町）
	23	西部地震復興30周年事業打合せ（局）
	25	高山植物保護管理協議会総会出席（上松町）
	26.27	温帯性針葉樹林保護・復元第1回管理委員会出席（木曽森林管理署）

月	日	活 動 内 容
7	1	馬籠峠踏査（南木曽町）
	3	森林林業体験促進事業（王滝村）
	8	田立の滝踏査（南木曽町）
	15	木曽駒ヶ岳植生復元注意看板設置
	17	フォレストワーカー案内（赤沢自然休養林） 下諏訪町役場打合せ（NPO 会議）
	19	旧帝室林野局木曽支局庁舎改修開館式出席（木曽町）
	30	「緑の少年団交流集会」指導（木曽町日義木曽駒森林公園）
8	7	教職員林業体験学習会（上松町）
	8	愛知県阿久比高等学校、森林ボランティア作業地確認（王滝村）
	11	西部地震復興30周年シンポジウム第2回運営会議（木曽森林管理署）
	19	森林ボランティア・NPO連携推進会議第2回実行委員会（下諏訪町役場）
	21	旅費改正打合せ会議（局）
	22	温帯性針葉樹林保護・復元第2回管理委員会（木曽森林管理署）
	25	木曽町林政懇談会出席
9	4	愛知県みよし市「友好の森ふれあいツアー」現地打合せ（木曽町三岳）
	6・7	NPO法人地球緑化センター 大樹の森 森林整備ボランティア指導（上松町）
	8	木曽駒ヶ岳植生復元資材運搬
	11	木曽駒ヶ岳植生復元ボランティア作業 指導
	16	瀬戸川風致探勝林踏査（王滝村）
	17	産業保健研修会受講（松本市）
	18	西部地震復興30周年事業シンポジウム（木曽町）
	20	愛知県みよし市「友好の森ふれあいツアー」作業指導（木曽町三岳）
	26	木曽駒ヶ岳植生復元ボランティア作業10周年記念講演会（駒ヶ根市）
	27	緑のバトン 案内 指導（王滝村）
10	1	木曽駒ヶ岳植生復元作業
	3・4	森林ボランティア・NPO連携推進会議（塩尻市）
	9	第2回管理委員会（木曽森林管理署）
	15	民有林・連携会議（中信署）
	17	木曽駒ヶ岳高山植物保護、看板撤去
	18	愛知県日進市、木祖村合同育樹祭（木祖村）
	24	地蔵峠踏査（木曽町）
	25	NPO法人緑の挑戦者森林整備指導（木曽町）
	26	城山史跡の森秋の散策会参加（木曽町）
	29	水木沢踏査（木祖村）
	31	城山史跡の森コウヤマキ植生調査（木曽町）
11	6	森林ボランティア・NPO連携推進会議下見、八島湿原踏査（下諏訪町）
	11	森林ボランティア・NPO連携推進会議実行委員会（下諏訪町）
	12	青峰高校ベンチ贈呈式、ササユリ自生地林床整備、巣箱掛（城山史跡の森）
	18	城山史跡の森カタクリ自生地保護ロープ整備（木曽町）
	19・20	森林ボランティア・NPO連携推進会議下見、打合せ（岐阜市、名古屋市）
	22	森林フォーラム出席（塩尻市）

月	日	活 動 内 容
1 2	2	王滝村支援イベント打合せ（王滝村）
	3	温帯性針葉樹林基本計画策定部会（局）
	6	わんぱく村森林整備参加（木曽町）
	9	木曽町支援イベント打合せ（木曽町）
	2 4	つながろう木曽支援パンフ、ポスター掲示（名古屋事務所）
	2 5	平成27年度業務打合せ（局）
1	6	王滝村、木曽町、支援状況説明
	7	木祖村、支援状況説明
	2 0	信州大学シンポジウム参加（森林分野における最先端レーザー研究）
	28・29	中部森林管理局森林技術交流発表会出席発表（局）
	3 1	県地方事務所「森林と緑をはぐくむ集い」出席（木曽町日義）
2	12・13	森林総研との技術交流会（王滝村）
	21・22	木曽・王滝復興支援ツアー
	23・24	関東局、赤谷ふれあいセンター視察
3	4	長野県立林業大学校卒業式出席
	5	長野県立木曽青峰高等学校卒業式出席
	1 0	技術開発委員会（長野市）
	11・12	温帯性針葉樹林、第3回管理委員会（長野市）
	2 3	城山史跡の森倶楽部総会出席（木曽町）
	2 4	交流促進委員会（王滝村）

memo
